



613-001109 Rev.A 081128

ベーシックVPNアクセス・ルーター

CentreCOM® **AR260S V2**

取扱説明書

CentreCOM AR260S V2
取扱説明書

アライドテレシス株式会社

安全のために



必ずお守りください

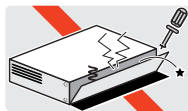


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電のおそれがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。
本製品に付属の AC アダプターは AC100-120V で動作します。



電圧注意

付属の電源アダプター以外使用しない

火災や感電の原因となります。
必ず、付属の AC アダプターを使用してください。



付属品を使う

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動の時は電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを抜く

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものをのせない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

正しく設置する 縦置き注意

取扱説明書に従って、正しく設置してください。

不適切な設置により、放熱が妨げられると、発熱による火災の原因となります。



正しく設置

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気が多い場所や、水などの液体がかかる場所（仕様に定められた環境条件下でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因となります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつかけたり、強いショックを与えたりしないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



プラグを
抜く

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらさない



中性洗剤
使用



固く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

はじめに

この度は、「CentreCOM AR260S V2」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

パッケージの確認

最初に梱包箱の中身を確認してください。

- CentreCOM AR260S V2 本体（1台）
- 専用ACアダプター（1個）
- UTPケーブル（1本、1m、エンハンスト・カテゴリ5、ストレートタイプ）
- 結束バンド（1本）
- 取扱説明書（本書、1冊）
- 製品仕様書（英文、1部）
- CD-ROM（1枚）
- ソフトウェア使用権許諾契約書（1部）
- シリアル番号シール（2枚）
- 製品保証書（1枚）

本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

本書について

本書は、安全上の注意、各部の名称や働き、設置や配線、プロバイダーへの接続のための設定など、本製品を使用する上で最も基本的なことを説明したマニュアルです。

本製品を正しくご使用いただくため、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また、必要なときにいつでもご覧いただくために、大切に保管していただきますようお願いいたします。

付属のCD-ROMについて

付属のCD-ROMには、以下のマニュアルが収録されています。CD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブに挿入すると、自動的にHTMLファイルが表示されますので、表示内容に従って操作してください。

- リファレンスマニュアル

本製品が表示するWeb画面の各項目や、項目が取るパラメーターの詳細が記載されています。本書の内容を含む、本製品の機能に関する完全な情報が記載されています。

- 設定例集

具体的な構成例を図解で示し、構成に関する設定の要点を簡潔に説明したマニュアルです。

製品名

本書では、「CentreCOM AR260S V2」を「本製品」と略します。

アイコンについて

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。





アイコン	意味	説明
 ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

図 0.0.1 アイコンの意味

安全のために.....	4
はじめに.....	6
パッケージの確認.....	6
本書について.....	6
付属のCD-ROMについて.....	6
製品名.....	6
アイコンについて.....	6
目次.....	7
1 製品概要.....	7
1.1 特長.....	7
オプション.....	7
1.2 各部の名称と機能.....	7
2 設置.....	9
2.1 平らな所に設置する.....	9
2.2 設置穴による壁面への設置.....	9
設置手順.....	9
2.3 19インチラックへの水平方向の設置.....	10
2.4 マグネットによる壁面への設置.....	10
3 配線.....	11
準備.....	11
ONU、ADSL モデム、ケーブルモデムなどの接続.....	11
コンピューターの接続.....	11
ACアダプターの接続.....	12
DCコードの固定.....	12
カスケード接続.....	12
4 設定の流れ.....	12
5 かんたん接続.....	13
設定の方針.....	13
設定.....	14
6 かんたんVPN.....	19
7 管理者パスワードの変更.....	27
8 トラブルシューティング.....	28
A 付録.....	29
A.1 製品仕様.....	29
A.2 JavaScriptの有効化.....	30
A.3 コンピューターの設定.....	30
Windows XPの設定.....	30
Mac OS X (10.4)の設定.....	32
A.4 工場出荷時設定への初期化.....	32
B 保証と修理.....	33
アライドテレシス株式会社 修理受付窓口.....	33
保証の制限.....	33
C ユーザーサポート.....	33
アライドテレシス株式会社 サポートセンター.....	33
C.1 サポートに必要な情報.....	33
一般事項.....	33
回線について.....	33
お問い合わせ内容について.....	33
ネットワーク構成について.....	33

1.1 特長

本製品は、VPN (IPsec) 対応の SOHO 向けベーシック VPN アクセシブ・ルーターです。暗号処理用のハードウェアエンジンを搭載しており、VPN 処理のためのプロセッサの搭載により、高速 VPN 環境を提供します。

- FTTH や ADSL、CATV などのブロードバンド系サービスに対応 (PPPoE、DHCP、固定 IP 設定)
- IPsec (3DES、DES) による VPN
- ステートフル・インスペクション型ファイアウォール
- パケットフィルタリング
- NAT/ENAT、ポートフォワーディング機能
- SNMP クライアント、ログや統計情報の表示、SNMP エージェント
- DHCP サーバー / クライアント機能
- PPPoE マルチセッションに対応 (4 セッション)
- Web ブラウザーによる簡単設定
- DynDNS へのダイナミック DNS 登録
- ブリッジング (IPv6 ブリッジ、PPPoE ブリッジ)
- UPnP 機能

オプション

- マグネット Kit M
- 19インチ・ラックマウントキット AT-RKMT-J08

1.2 各部の名称と機能



図 1.2.1 前面

① POWER LED

LED	色	状態	表示の内容
POWER	緑	点灯	電源が供給されています。
		消灯	電源が供給されていません。

② SYSTEM LED

LED	色	状態	表示の内容
SYSTEM	橙	点灯	異常が発生しています (起動時の一時的な点灯、点滅は正常です。また、起動時のLEDの消灯は、起動の完了を示すものではありません)。
		点滅	フラッシュメモリの読み出し、書き込みを実行しています。
		消灯	正常です。

③ STATUS LED (未サポート)

お客様はご使用になれません。

④ WAN/ETHO LED

LED	色	状態	表示の内容
L/A	緑	点灯	100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100Mbpsでパケットの送受信が行われています。
	橙	点灯	10Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Mbpsでパケットの送受信が行われています。
-	-	消灯	リンクが確立していません。
D/C	緑	点灯	Full Duplex (全二重) です。
		点滅	コリジョンが発生しています。
		消灯	Half Duplex (半二重) です。

⑤ LAN1 ~4 LED

WAN/ETHO LED と同様です。

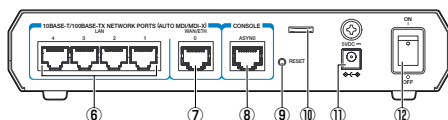


図 1.2.2 背面

⑥ LAN ポート

LAN 側の UTP ポートです。4 つのポートがあり、10BASE-T、100BASE-TX に対応しています。LAN 側の各ポート間の通信はスイッチングにより行われます。通信モードは、オートネゴシエーションが設定されています。MDI/MDI-X 自動切替機能が有効で、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) に関わらず、ストレートまたはクロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

⑦ WAN ポート


WAN 側の UTP ポートです。10BASE-T、100BASE-TX に対応しています。通信モードは、オートネゴシエーションが設定されています (手動設定も可能です)。MDI/MDI-X 自動切替機能が有効で、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) に関わらず、ストレートまたはクロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

⑧ CONSOLE ポート (未サポート)

弊社メンテナンス用のコンソールポートです。お客様はご利用になれません。

⑨ リセットスイッチ

電源スイッチ、SYSTEM LED を組み合わせた操作により、本製品を工場出荷時設定に初期化するスイッチです。

 本書「A.4 工場出荷時設定への初期化」(p.32)

⑩ ケーブル固定リング

DC ケーブルを固定するリングです。

⑪ DC ジャック

ACアダプターのDC プラグを接続するジャックです。

⑫ 電源スイッチ

本製品に供給される電源をオン、オフするためのスイッチです。

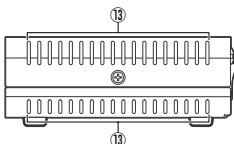



図 1.2.3 側面

⑬ 通気口

換気により、本体内部の熱を逃がすための通気口です。

 通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。
注意

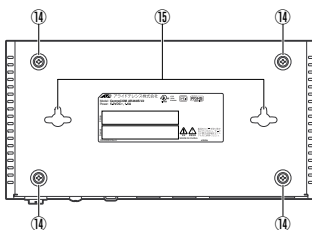


図 1.2.4 底面

⑭ ゴム足

水平面に設置するためのゴム足です。

⑮ 壁面設置穴

本製品を壁面に設置するためのダルマ穴です。

2 設置

本製品は、次の方法による設置ができます。

- ゴム足による水平方向の設置
- 設置穴による壁面への設置

また、オプション（別売）を利用することにより、次の方法による設置ができます。

- ラックマウントキット AT-RKMT-J08 による 19 インチラックへの水平方向の設置
- マグネット Kit M によるスチール製壁面への設置



弊社指定以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。



水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合には直ちに使用を止め、弊社サポートセンターにご連絡ください。



電源部が下向きになる方向で設置する場合には、必ず結束バンドを使用し、DC コードをコード固定リングに固定してください。

本製品の設置を始める前に、必ず「安全のために」をよくお読みください。また、以下の点にもご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 底面を上にして設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 本製品の上にものを置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- コネクターの端子にはさわらないでください。静電気を帯びた手（体）でコネクターの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。

2.1 平らな所に設置する

本製品は、ゴム足を取り付けた状態で出荷されますので、そのままデスクの上などの平らなところに設置して使用できます。

2.2 設置穴による壁面への設置

本製品は底面のタルマ穴を使用して、壁面に設置することができます。

本製品には、壁面設置用タッピングスクリューおよびプラスチックアンカーは同梱されていません。使用の際は、お客様にて別途ご用意ください。

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

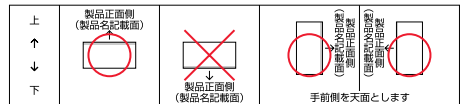


図 2.2.1 タルマ穴を使用する場合の設置方向



必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。



適切なタッピングスクリューを使用してください。不適切なタッピングスクリューを使用した場合、落下などにより重大な事故が発生するおそれがあります。



十分な取り付け強度が得られない壁面に設置しないでください。十分な強度が得られない場合、落下などにより重大な事故が発生するおそれがあります。

設置手順

- 1 電源コンセントの位置や、AC アダプターの DC コードの長さ、UTP ケーブルの引き回し方法、壁面の構造上の強度などを考慮して、本製品の設置場所を決定してください。
- 2 図 2.2.3、図 2.2.5 を参考にして、適切なサイズのタッピングスクリュー 2 本を用意してください。
- 3 本製品は図 2.2.1 の方向に取り付けることができます。取り付けの向きを決め、壁面に 2 本のタッピングスクリューをねじ込みます。
 - 製品の前面を上向きにして取り付けの場合、水平方向に 140mm の間隔でねじ込んでください。
 - 製品の左側面を上向きにして取り付けの場合、垂直方向に 140mm の間隔でねじ込んでください。

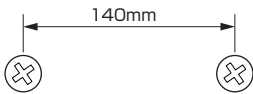


図 2.2.2 タッピングスクリーンの間隔

タッピングスクリーンの頭と壁面の間隔が 1 ~ 2mm となるようにねじ込んでください。

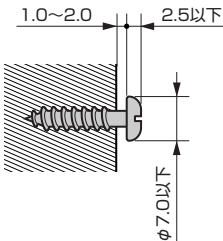


図 2.2.3 頭の飛び出し寸法

- 4 本製品底面のゴム足を取り外してください。
- 5 2つのダルマ穴を、壁面のタッピングスクリーンの頭に通し、穴の細い部分までずらして固定してください。

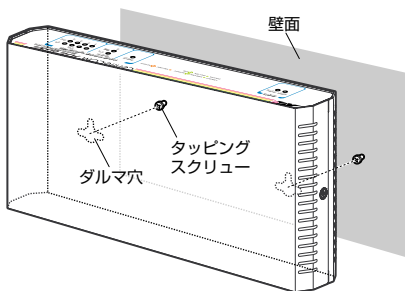


図 2.2.4 ダルマ穴をスクリーンの頭に通す

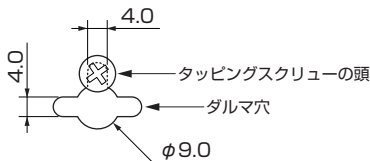


図 2.2.5 細い部分までずらして固定

2.3 19 インチラックへの水平方向の設置

本製品を 19 インチラックに取り付ける場合には、オプションの 19 インチラックmountキットAT-RKMT-J08 をご使用ください。

ラックmountキットの使用法は、AT-RKMT-J08 の取扱説明書をご参照ください。



警告 本製品をオプションの 19 インチラックmountキットを使用して 19 インチラックに取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生するおそれがあります。

2.4 マグネットによる壁面への設置

本製品のスチール製壁面への設置は、別売のマグネット Kit M を使用し、以下の点に注意して行ってください。

マグネットキットの使用法は、マグネット Kit M の取扱説明書をご参照ください。

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。



図 2.4.1 マグネットキットを使用する場合の設置方向



警告 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。



警告 マグネットの取り付けおよび機器の設置は、ケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に行ってください。ケガや機器破損の原因となるおそれがあります。



注意 設置面の状態によっては、マグネットの十分な強度を得られない場合があります。

3 配線

図 3.0.1 に基本的なネットワーク構成を示します。図 3.0.1 をご覧になり、以下の手順で機器の接続を行ってください。



雷が発生しているときは、本製品の設置や、ケーブルの配線を行わないでください。落雷により感電する恐れがあります。

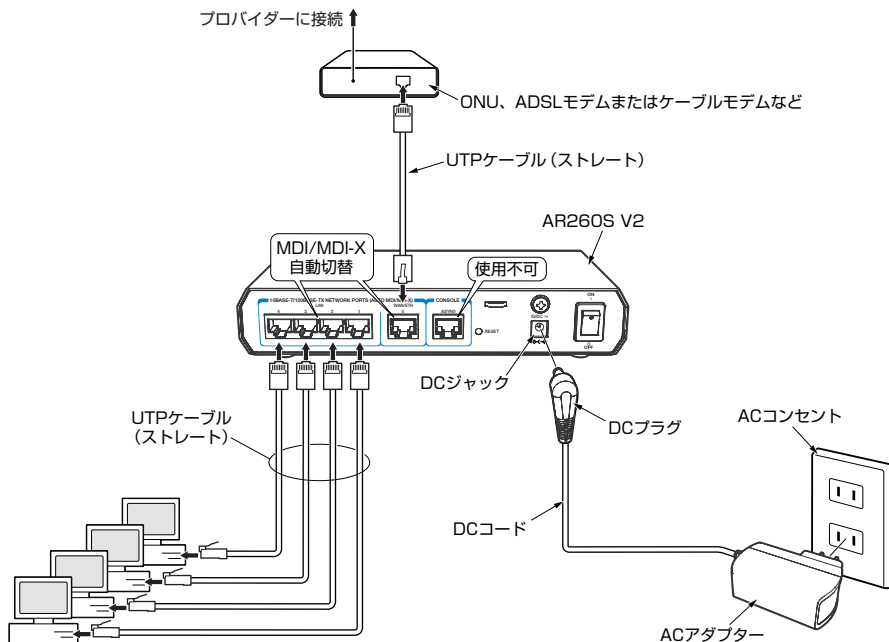


図 3.0.1 基本的なネットワーク構成

準備

- 以下の手順は、回線から ONU (Optical Network Unit)、ADSL モデムまたはケーブルモデムまでの工事が完了しているものとして説明します。
- 本製品に接続するコンピューターで TCP/IP プロトコルが使用できるようにしておきます。

参照 本書「A.3 コンピューターの設定」(p.30)

- 適切な長さの UTP ケーブルを必要な本数だけご用意ください。

- 100BASE-TX の場合
カテゴリー 5 以上、最長 100m
- 10BASE-T の場合
カテゴリー 3 以上、最長 100m



ヒント

本製品の全ポートは MDI/MDI-X 自動切替機能を持つので、ストレートまたはクロスのどちらのタイプの UTP ケーブルを使用してもリンクが確立しますが、本書ではストレートタイプを使用します。

ONU、ADSL モデム、ケーブルモデムなどの接続

- 1 UTP ケーブル先端の爪部分を下側に持ち、WAN ポートに挿入して、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 2 UTP ケーブルのもう一端を、ONU、ADSL モデムまたはケーブルモデムに接続してください。

コンピューターの接続

- 1 UTP ケーブル先端の爪部分を下側に持ち、LAN ポートに挿入して、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 2 UTP ケーブルのもう一端を、コンピューターのネットワークポートに接続してください。
- 3 手順 1、手順 2 を繰り返し、すべてのコンピューターを本製品に接続してください。

ACアダプターの接続

- 1 ACアダプターのDCプラグを、本製品のDCジャックに接続してください。
- 2 ACアダプターのACプラグをACコンセントに接続してください。

DCコードの固定

壁面に設置する場合など、DCプラグが抜け落ちないように、結束バンドでDCコードを固定してください。

- 1 結束バンドをコード固定リングに通してください。
- 2 付属の結束バンドを使い、DCコードをコード固定リングに固定してください。

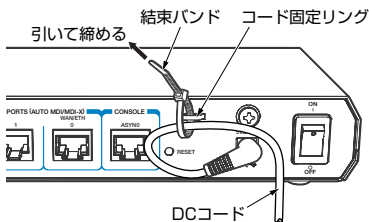


図 3.0.2 DCコードの固定

カスケード接続

本製品には、4台までのコンピューターを接続できますが、更に多くのコンピューターを接続したい場合は、スイッチやHUBをカスケード接続することができます。

- 1 UTPケーブル先端の爪部分を下側に持ち、任意のLANポートに挿入して、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 2 UTPケーブルのもう一端を、カスケード接続するスイッチまたはHUBの任意のポートに接続してください。

4 設定の流れ

「かんたん接続」「かんたんVPN」を使用することにより必要最小限の操作で、2拠点間のVPN接続を行うことができます。VPN接続が完了するまでの作業の流れは下記の通りです。

1 準備 (条件の確認)

VPN接続を行う場合、以下の接続パターンがあります。

- 固定IPアドレス同士を接続する
- 固定IPアドレスと動的IPアドレスを接続する
- 動的IPアドレス同士を接続する

固定IPアドレス同士で接続する、もしくは固定IPアドレスと動的IPアドレスを接続する場合には、固定IPアドレスを利用するルーターのWAN側IPアドレスが固定IPアドレスとなるように、インターネット・サービス・プロバイダーと契約します。

動的IPアドレス同士を接続する場合には、DynDNS (<http://www.dyndns.com/>) にアカウントを作成しておきます。

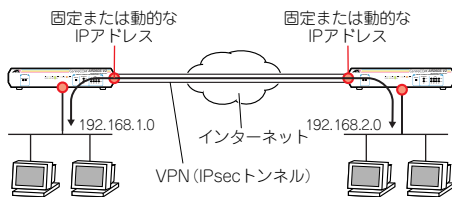


図 4.0.1 VPN 接続可能なIPアドレスの組み合わせ

一方を動的IPアドレスにする場合、サーバーなどが設置されている側を固定IPアドレスにし、サーバーにアクセスする側を動的IPアドレスにします。両方を動的IPアドレスとする場合は、サーバーなどが設置された側もしくは両方をDynDNSのダイナミックDNSに登録します。

事前共有鍵を決定します。事前共有鍵(文字列)は、ルーター間の認証の際に使用するもので、接続する2拠点に同一の鍵を持たせません。

各拠点のLAN側IPアドレスを決定します。拠点のLAN側IPアドレスはそれぞれ異なったものでなければなりません。

- 2 **かんたん接続** (p.13)
各拠点で「かんたん接続」を実行し、拠点のLANをインターネット(プロバイダー)に接続します。
- 3 **かんたんVPN** (p.19)
各拠点のLANをVPNで接続します。
- 4 **管理者パスワードの変更** (p.27)
セキュリティ確保のために、本製品の管理者パスワードを変更します。

5 かんたん接続

「かんたん接続」を使用して、各拠点の LAN をインターネットに接続します。図 5.0.1、図 5.0.2 は、個人向けの端末型インターネット接続のネットワークの模式図です。

参照 高度な設定については、CD-ROMに収録の「リファレンスマニュアル」「設定例集」をご覧ください。

設定の方針

- ファイアウォールを有効にし、外部からの不正アクセスを遮断しつつ、内部からは自由にインターネットへのアクセスができるようにします。
- ENAT 機能を利用して、LAN 側ネットワークのプライベート IP アドレスを、プロバイダーから与えられたグローバル IP アドレスに変換します。これにより、LAN に接続された複数のコンピューターからインターネットへの同時アクセスが可能となります。

- DHCP サーバー機能を有効にし、LAN に接続されたコンピューターに IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバーアドレスの情報を提供します。

- DNSリレー機能を有効にし、LAN側のコンピューターからの DNS リクエストを、プロバイダーの DNS サーバーに転送します。前述の DHCP サーバーの設定により、LAN 側のコンピューターに対しては、本製品自身の IP アドレスを提供します。

- SNTP を有効にし、本製品の時刻を時刻情報サーバーに同期します。

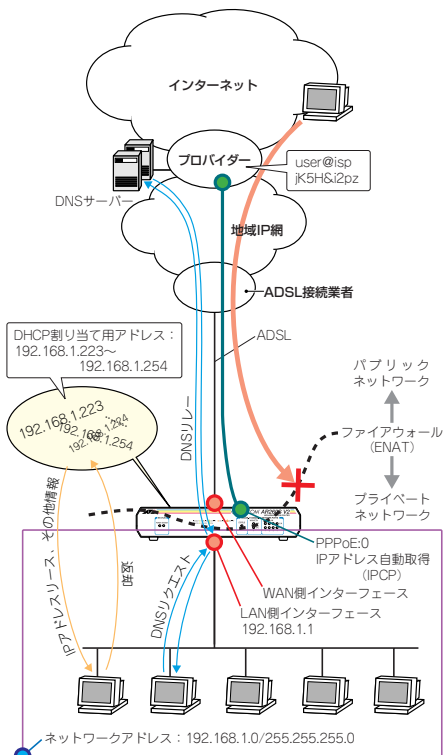


図 5.0.1 PPPoE による接続の模式図

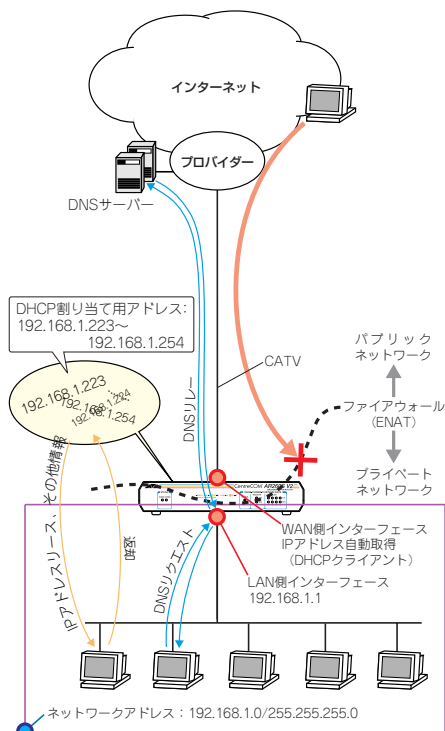


図 5.0.2 Ethernet による接続の模式図

設定

- 1 本製品の電源スイッチをオンにしてください。



電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

ヒント

- 2 コンピューターを起動してください。



あらかじめ「A.3 コンピューターの設定」(p.30)を実施しておく必要があります。

- 3 Windows版のInternet Explorer^{*1}を起動し、「http://192.168.1.1/」にアクセスしてください。

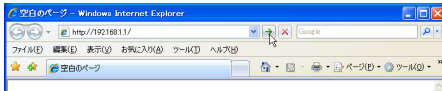


図 5.0.3 本製品へのアクセス

- 4 次のダイアログボックスが表示されたら、「ユーザー名」に「manager」、「パスワード」に「friend」と入力し、「OK」をクリックしてください（パスワードは伏せ字で表示されます）。

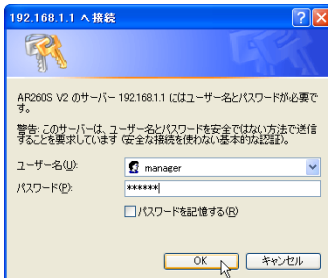


図 5.0.4 本製品へのログイン



ここで使用するユーザー名「manager」、パスワード「friend」は、プロバイダーから提供されるものではありません。

- 5 「かんたん接続」の画面が表示されます。「次へ」をクリックしてください。契約している回線タイプが自動的に選択されます。

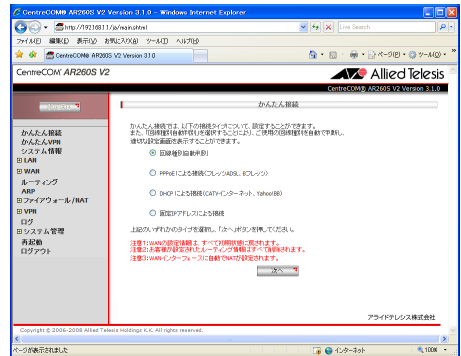


図 5.0.5 セットアップウィザードの開始

- 6 「PPPoEによる接続（フレッツADSL、B フレッツ）」が選択された場合は、手順7に進んでください。

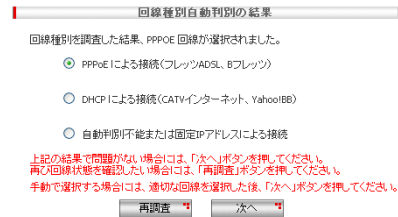


図 5.0.6 回線種別自動判別の結果

「DHCPによる接続（CATVインターネット、Yahoo!BB）」が選択された場合は、手順10に進んでください。

「自動判別不能または固定IPアドレスによる接続」が選択された場合は、手順13に進んでください。

*1 本製品の設定は、Windows版のInternet Explorer Ver.7 または Ver.6 をご使用ください。

● PPPoE による接続の設定

- 7 各項目の入力を終えたら、「次へ」をクリックしてください。

かんたん接続

接続名称
my_isp ×1

接続名称(例えば、プロバイダーや回線会社などの名称)を入力してください。
*1 : 入力可能文字は、英数字文字と ! # % & () + - . (化リोट) = @ [] ^ _ (下線) { } ~ 空白 です。

ユーザー名
user@isp ×2

パスワード
●●●●●●●● ×2

契約プロバイダーから提供されたユーザー名とパスワードを入力してください。
*2 : 入力可能文字は、英数字文字と ! # % & () + - . (化リोट) = @ [] ^ _ (下線) { } ~ です。

DNSオプション
 固定設定 自動取得

契約プロバイダーから指示がない場合、口は、「自動取得」のままとしてください。

フレッツ・スクウェアの設定をする場合は、チェックボックスを有効にしてください。

フレッツ・スクウェアの設定

回復
NTT東日本

入力が完了しましたら、「次へ」のボタンを押してください。



図 5.0.7 PPPoE 接続の設定内容

- 接続名称：この接続設定を識別するための分かりやすい名前（例えばプロバイダー名など）を入力してください。
(例)「my_isp」
- ユーザー名：プロバイダーから指定されたユーザー名を入力してください。
(例)「user@isp」
- パスワード：プロバイダーから指定されたパスワードを入力してください（パスワードは伏せ字で表示されます）。
(例)「jK5H&i2pz」
- DNS オプション：「自動取得」（デフォルト）を選択すると、プロバイダーから自動取得した DNS サーバーアドレスを使用します。「固定設定」を選択すると、次の「プライマリー DNS サーバー」「セカンダリー DNS サーバー」に入力したアドレスを使用します。
- プライマリー DNS サーバー、セカンダリー DNS サーバー：前述の「DNS オプション」を「固定設定」にすると、これらの欄が現れますので、DNS サーバーのアドレスを入力してください。ひとつのみの場合は、「プライマリー DNS サーバー」に入力してください。

- フレッツ・スクウェアの設定：フレッツ・スクウェアをご使用になる場合は、チェックボックスにチェックを入れ、「回線」から「NTT 東日本」または「NTT 西日本」を選択してください。「NTT 東日本」を選択した場合、ルーティングアドレス情報が更新されていないが、最新の情報を確認してください。

- 8 使用する機能をチェックし、「次へ」をクリックしてください。

かんたん接続

必要に応じて次の機能を有効にしてください。
VoIP アダプタなどを使用する場合は、UPnPを有効にしてください。
NTT 東日本のフレッツ・スクウェア/NTT 西日本のフレッツ・スクウェアアダプタなどを利用する場合は IPv6 プロトコルをブリッジを有効にしてください。

UPnP を有効にする

ブリッジ
 IPv6 プロトコルをブリッジする
 PPPoE プロトコルをブリッジする

必要な機能にチェックをつけ、「次へ」ボタンを押して下さい

前へ 次へ

図 5.0.8 PPPoE 接続で使用する機能

- UPnP を有効にする：UPnP 機能を有効にします。ルーター配下に UPnP 対応機器を接続する場合にチェックしてください。
- IPv6 プロトコルをブリッジする：LAN と WAN の間で IPv6 パケットをブリッジします。フレッツ・ドットネットまたは、フレッツ・スクウェア v6 を利用する場合はチェックします。
- PPPoE プロトコルをブリッジする：LAN と WAN の間で PPPoE パケットをブリッジします。



注意

NTT東日本 / 西日本のVoIP アダプタとの動作を確認済みです。なお、VoIP アダプタは一台までしか接続できませんのでご注意ください。

- 9 現在の設定内容が表示されます。内容を確認し、「適用」をクリックしてください。

かんたん接続

以下の内容でWANを設定します。
内容を確認し、「適用」ボタンを押してください。誤りがある場合は、「前へ」ボタンを押し、内容を修正してください。
「適用」ボタンを押すと、WANの設定を保存し、接続動作を開始します。

接続モード	PPPoE
接続名称	my_isp
ユーザー名	user@isp
DNSオプション	自動取得
プライマリーDNSサーバー	
セカンダリーDNSサーバー	
フレッツ・スクウェア	NTT東日本
UPnP	使用しない
IPv6ブリッジ	使用する
PPPoEブリッジ	使用しない

注意1: プライマリーDNSサーバーの戻るボタンは使われていない。
注意2: 「適用」ボタンを押した後、インターネットが正常に利用する設定が有効になります。

前へ 適用

図 5.0.9 PPPoE 接続の設定内容の確認

手順 16 に進んでください。

● DHCP による接続の設定

10 各項目の入力を終えたら、「次へ」をクリックしてください。

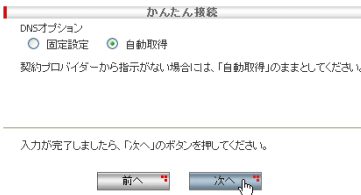


図 5.0.10 DHCP 接続の設定内容

- DNS オプション：「自動取得」（デフォルト）を選択すると、プロバイダーから自動取得した DNS サーバーアドレスを使用します。「固定設定」を選択すると、次の「プライマリー DNS サーバー」「セカンダリー DNS サーバー」に入力したアドレスを使用します。
- プライマリー DNS サーバー、セカンダリー DNS サーバー：前述の「DNS オプション」を「固定設定」にすると、これらの欄が現れますので、DNS サーバーのアドレスを入力してください。ひとつのみの場合は、「プライマリー DNS サーバー」に入力してください。

11 使用する機能をチェックし、「次へ」をクリックしてください。

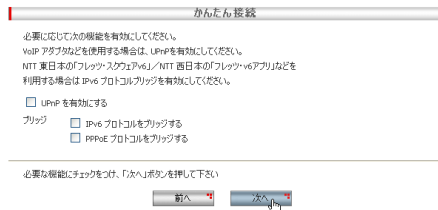


図 5.0.11 DHCP 接続で使用する機能

- UPnP を有効にする：UPnP 機能を有効にします。ルーター配下に UPnP 対応機器を接続する場合にチェックしてください。
- IPv6 プロトコルをブリッジする：LAN と WAN の間で IPv6 パケットをブリッジします。
- PPPoE プロトコルをブリッジする：LAN と WAN の間で PPPoE パケットをブリッジします。



VoIP アダプタは一台までしか接続できませんのでご注意ください。

注意

12 現在の設定内容が表示されます。内容を確認し、「適用」をクリックしてください。



図 5.0.12 DHCP 接続の設定内容の確認

手順 16 に進んでください。

●固定 IP アドレスによる接続の設定

13 各項目の入力を終えたら、「次へ」をクリックしてください。

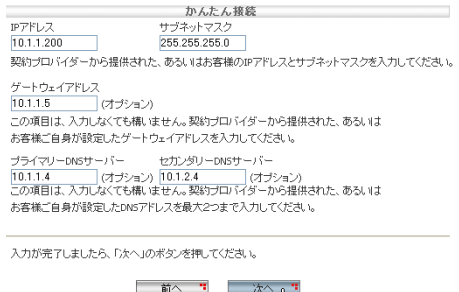


図 5.0.13 固定 IP アドレス接続の設定内容

- IP アドレス：プロバイダーから指定された IP アドレスを入力してください。(例)「10.1.1.200」
- サブネットマスク：プロバイダーから指定されたサブネットマスクを入力してください。(例)「255.255.255.0」
- ゲートウェイアドレス：プロバイダーから指定されたゲートウェイアドレスを入力してください。(例)「10.1.1.5」
- プライマリー DNS サーバー：プロバイダーから指定されたプライマリー DNS サーバーのアドレスを入力してください。DNS サーバーがひとつのみの場合は、「プライマリー DNS サーバー」に入力してください。
- セカンダリー DNS サーバー：プロバイダーから指定されたセカンダリー DNS サーバーのアドレスを入力してください。

14 使用する機能をチェックし、「次へ」をクリックしてください。

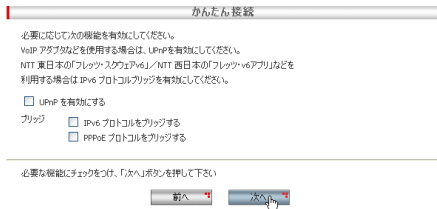


図 5.0.14 固定 IP アドレス接続で使用する機能

- UPnP を有効にする : UPnP 機能を有効にします。ルーター配下に UPnP 対応機器を接続する場合にチェックしてください。
- IPv6 プロトコルをブリッジする : LAN と WAN の間で IPv6 パケットをブリッジします。
- PPPoE プロトコルをブリッジする : LAN と WAN の間で PPPoE パケットをブリッジします。



VoIP アダプタは一台までしか接続できませんのでご注意ください。

注意

15 現在の設定内容が表示されます。内容を確認し、「適用」をクリックしてください。

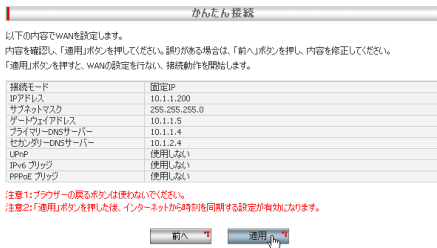


図 5.0.15 固定 IP アドレス接続の設定内容の確認

16 VPN で拠点間を接続する場合、各拠点の LAN 側 IP アドレスは異なったものでなければなりません。LAN 側 IP アドレスを変更する場合は、「LAN 設定」をクリックしてください。変更が不要な場合は、「完了」をクリックし、手順 22 に進んでください。

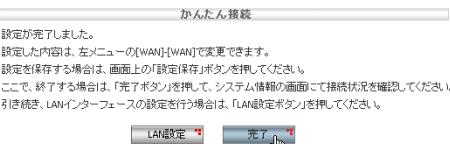


図 5.0.16 かんたん接続の完了

● LAN 側 IP アドレスの変更

17 IP アドレス、サブネットマスクをご希望の値に変更し、「適用」をクリックしてください。以下の例では、「192.168.2.1」に変更しています。IP アドレスの変更により、Web ブラウザーとの接続が切断されます。

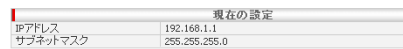
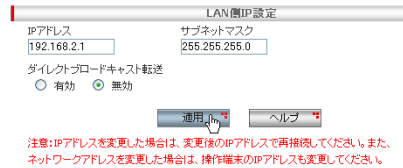


図 5.0.17 LAN 側 IP アドレスの変更



DHCP サーバーによって提供される情報も、この IP アドレスの変更に合わせて変更されます。

18 コンピューターを再起動し、変更後の IP アドレスを取得してください。



あらかじめ「A.3 コンピューターの設定」(p.30)を実施しておく必要があります。

19 Internet Explorer を起動し、変更後のアドレスにアクセスしてください。
(例) 「http://192.168.2.1/」

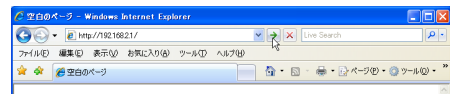


図 5.0.18 変更後のアドレスへのアクセス

20 「ユーザー名」に「manager」、「パスワード」に「friend」と入力し、「OK」をクリックしてください (パスワードは伏せ字で表示されます)。

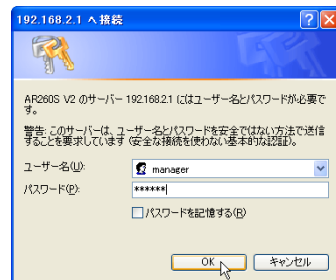


図 5.0.19 再ログイン

21 手順 23 に進み、現在の設定を保存してください。



画面左の「システム情報」をクリックすると、LAN や WAN の現時点の設定状態を確認できます (図 5.0.20～図 5.0.22)。

●設定の確認

22 現在の設定状態が表示されます。

システム情報	
ファームウェアバージョン	3.1.0 B09 (RELEASE SOFTWARE)
次回起動ファームウェア	3.1.0 B09 (RELEASE SOFTWARE)
LAN側MACアドレス	00-09-41-e6-b0-05
WAN側MACアドレス	00-09-41-e6-b0-04
システム起動時間	0 week 0 day 0 hour 4 minute 51 second
システム名	Router
システムロケーション	
連絡先	
LAN設定	
LAN側IPアドレス	192.168.1.1
LAN側サブネットマスク	255.255.255.0
WAN設定	
接続モード	PPPoE
WANのスピード	Autonegotiation : 100M Full Duplex
デフォルトゲートウェイアドレス	pppoe0
pppoe0	
セッション状態	有効
接続状況	接続
IPアドレス	10.1.1.200
サブネットマスク	255.255.255.255
PEERのアドレス	10.1.2.1
プライマリ-DNSサーバー	10.1.1.4
セカンダリ-DNSサーバー	10.1.2.4
接続オプション	キーアライブ
エコー送信間隔	60
MSS値	1452 (auto)
pppoe1	
セッション状態	無効
接続状況	未接続
IPアドレス	
サブネットマスク	
PEERのアドレス	
プライマリ-DNSサーバー	
セカンダリ-DNSサーバー	
接続オプション	キーアライブ
エコー送信間隔	60
MSS値	

図 5.0.20 PPPoE の場合

システム情報	
ファームウェアバージョン	3.1.0 B09 (RELEASE SOFTWARE)
次回起動ファームウェア	3.1.0 B09 (RELEASE SOFTWARE)
LAN側MACアドレス	00-09-41-e6-b0-05
WAN側MACアドレス	00-09-41-e6-b0-04
システム起動時間	0 week 0 day 0 hour 9 minute 40 second
システム名	Router
システムロケーション	
連絡先	
LAN設定	
LAN側IPアドレス	192.168.1.1
LAN側サブネットマスク	255.255.255.0
WAN設定	
接続モード	DHCP
WANのスピード	Autonegotiation : 100M Full Duplex
接続状況	接続
IPアドレス	10.1.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイアドレス	10.1.1.5
プライマリ-DNSサーバー	10.1.1.4
セカンダリ-DNSサーバー	10.1.2.4

図 5.0.21 DHCP の場合

システム情報	
ファームウェアバージョン	3.1.0 B09 (RELEASE SOFTWARE)
次回起動ファームウェア	3.1.0 B09 (RELEASE SOFTWARE)
LAN側MACアドレス	00-09-41-e6-b0-05
WAN側MACアドレス	00-09-41-e6-b0-04
システム起動時間	0 week 0 day 0 hour 8 minute 14 second
システム名	Router
システムロケーション	
連絡先	
LAN設定	
LAN側IPアドレス	192.168.1.1
LAN側サブネットマスク	255.255.255.0
WAN設定	
接続モード	固定IP
WANのスピード	Autonegotiation : 100M Full Duplex
接続状況	接続
IPアドレス	10.1.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイアドレス	10.1.1.5
プライマリ-DNSサーバー	10.1.1.4
セカンダリ-DNSサーバー	10.1.2.4

図 5.0.22 固定 IP アドレスの場合

●設定の保存

- 23 画面左の「設定保存」ボタンをクリックしてください。設定が保存されると「設定保存」の文字がグレイアウトします。

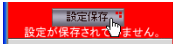


図 5.0.23 設定の保存

●接続の確認

- 24 インターネットにアクセスできるか確認してください。コンピューターの画面で Web ブラウザーを起動し、任意の URL を指定します。

- 25 VPN 接続しない場合は、「7 管理者パスワードの変更」(p.27) に進んでください。

VPN 接続する場合は、各拠点で手順 1～手順 23 を実行し、各拠点のインターネット接続が完了したら、「6 かんたん VPN」に進んでください。

6 かんたん VPN

「かんたん VPN」*2 を使用して、2 拠点を VPN 接続します。設定に入る前に、「4 設定の流れ」(p.12) の「1 準備(条件の確認)」を確認してください。

●固定 IP アドレス同士の VPN 接続

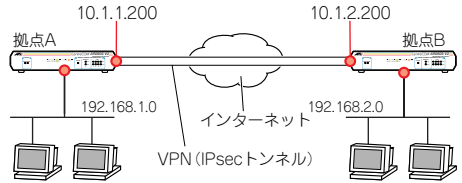


図 6.0.1 固定 IP アドレス同士の VPN 接続

- 1 画面左の「かんたん VPN」をクリックしてください。

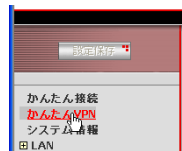


図 6.0.2 かんたん VPN をクリック

- 2 拠点 A、B とも「固定 IP アドレスのルーター同士を接続する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

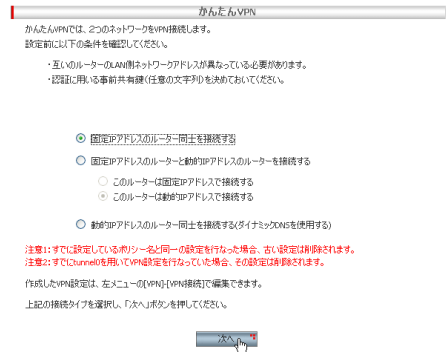


図 6.0.3 VPN の接続条件の選択

*2 「かんたん VPN」では、ひとつの設定（ポリシー）のみが作成可能です。仮想トンネルインターフェースとして常に tunnel0 を使用するため、「かんたん VPN」を再実行すると、前回の設定は上書きされます。

3 拠点 A、B で各項目を入力し、「次へ」をクリックしてください。

かんたんVPN

かんたんVPNでは、以下の状態で動作するルーターを設定します。
固定IPアドレスのルーター同士の接続を設定します。

以下のVPNパラメータを入力してください。

ポリシー名 ※
設定を識別するための名前をつけてください。

ローカルネットワーク ネットワークアドレス サブネットマスク
このルーターのLAN側ネットワークを設定してください。

リモートネットワーク ネットワークアドレス サブネットマスク
対向ルーターのLAN側ネットワークを設定してください。

リモートゲートウェイ リモートゲートウェイ
対向ルーターのWAN側IPアドレスを設定してください。

事前共有鍵 事前共有鍵 ※
対向のルーターに設定した「事前共有鍵」と同一の鍵を設定してください。

※ : 入力可能文字は、英数字文字と ! # % & () + , . (ピリオド) = @ [] ^ _ (下線) { } ~ です。

入力が完了しましたら、「次へ」のボタンを押してください。

図 6.0.4 拠点 A の設定

かんたんVPN

かんたんVPNでは、以下の状態で動作するルーターを設定します。
固定IPアドレスのルーター同士の接続を設定します。

以下のVPNパラメータを入力してください。

ポリシー名 ※
設定を識別するための名前をつけてください。

ローカルネットワーク ネットワークアドレス サブネットマスク
このルーターのLAN側ネットワークを設定してください。

リモートネットワーク ネットワークアドレス サブネットマスク
対向ルーターのLAN側ネットワークを設定してください。

リモートゲートウェイ リモートゲートウェイ
対向ルーターのWAN側IPアドレスを設定してください。

事前共有鍵 事前共有鍵 ※
対向のルーターに設定した「事前共有鍵」と同一の鍵を設定してください。

※ : 入力可能文字は、英数字文字と ! # % & () + , . (ピリオド) = @ [] ^ _ (下線) { } ~ です。

入力が完了しましたら、「次へ」のボタンを押してください。

図 6.0.5 拠点 B の設定

- ポリシー名：この設定に対して、分かりやすい名前を付けてください。拠点 A、B で別々の名前を付けることもできますが、ここでは同じ名前を使用します。
(例)「vpn_a_b」

- ローカルネットワーク：こちら側ルーターの LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。
(例)「192.168.1.0」「255.255.255.0」

- リモートネットワーク：相手側ルーターの LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。
(例)「192.168.2.0」「255.255.255.0」

- リモートゲートウェイ：相手側ルーターの WAN 側 IP アドレスを入力してください。
(例)「10.1.2.200」

- 事前共有鍵：こちら側、相手側ルーターとも同じ文字列を入力してください（事前共有鍵は伏せ字で表示されます）。
(例)「secret」

4 内容を確認し、「適用」をクリックしてください。

かんたんVPN

以下の内容でVPNを設定します。
内容を確認し、「適用」ボタンを押してください。誤りがある場合は、「前へ」ボタンを押し、内容を修正して「適用」ボタンを押すと、VPNの設定を行ない、ネゴシエーションを開始します。

VPNルーターの接続形態	固定IPアドレスのルーター同士を接続する
このルーターのWAN側IPアドレス	このルーターは固定IPアドレスで接続する
ポリシー名	vpn_a_b
ローカルネットワークのネットワークアドレス	192.168.1.0
ローカルネットワークのネットワークマスク	255.255.255.0
リモートネットワークのネットワークアドレス	192.168.2.0
リモートネットワークのネットワークマスク	255.255.255.0
リモートゲートウェイ	10.1.2.200
事前共有鍵	***** (設定済)
フェーズ1 ローカルID	(不要)
フェーズ1 リモートID	(不要)

注意：ブラウザの戻るボタンは使わないでください。

図 6.0.6 拠点 A の設定確認

かんたんVPN

以下の内容でVPNを設定します。
内容を確認し、「適用」ボタンを押してください。誤りがある場合は、「前へ」ボタンを押し、内容を修正して「適用」ボタンを押すと、VPNの設定を行ない、ネゴシエーションを開始します。

VPNルーターの接続形態	固定IPアドレスのルーター同士を接続する
このルーターのWAN側IPアドレス	このルーターは固定IPアドレスで接続する
ポリシー名	vpn_a_b
ローカルネットワークのネットワークアドレス	192.168.2.0
ローカルネットワークのネットワークマスク	255.255.255.0
リモートネットワークのネットワークアドレス	192.168.1.0
リモートネットワークのネットワークマスク	255.255.255.0
リモートゲートウェイ	10.1.1.200
事前共有鍵	***** (設定済)
フェーズ1 ローカルID	(不要)
フェーズ1 リモートID	(不要)

注意：ブラウザの戻るボタンは使わないでください。

図 6.0.7 拠点 B の設定確認

5 「完了」をクリックしてください。

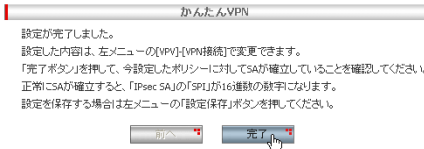


図 6.0.8 かんたん VPN の完了

6 VPN接続が確立すると、「IPsec SA」の「SPI」が 16 進数となります。表示されない場合は、表示を「更新」してみてください。



図 6.0.9 拠点 A の SA 状態

7 画面左の「設定保存」ボタンをクリックしてください。



図 6.0.11 設定の保存

8 LAN 側のコンピューターから、相手側の社内サーバーなどが参照できることを確認してください。

9 「7 管理者パスワードの変更」(p.27)に進んでください。



図 6.0.10 拠点 B の SA 状態

●一方が動的 IP アドレスの場合の VPN 接続^{*3}

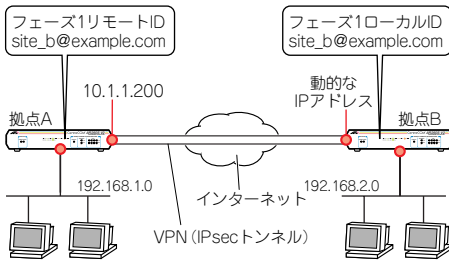


図 6.0.12 一方が動的 IP アドレスの VPN 接続

1 画面左の「かんたん VPN」をクリックしてください。



図 6.0.13 かんたん VPN をクリック

2 「固定 IP アドレスのルーターと動的 IP アドレスのルーターを接続する」を選択してください。

拠点 A では「このルーターは固定 IP アドレスで接続する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

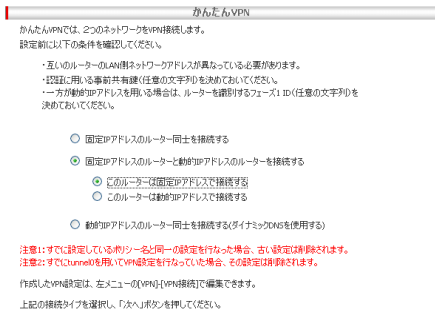


図 6.0.14 拠点 A は固定 IP アドレス

拠点 B では、「このルーターは動的 IP アドレスで接続する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

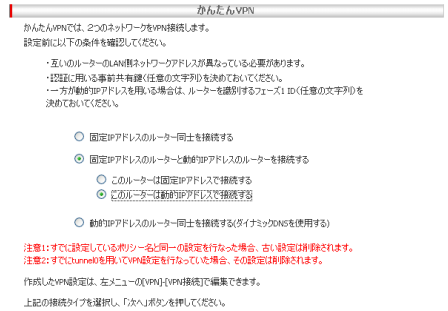


図 6.0.15 拠点 B は動的 IP アドレス

3 拠点 A、B で各項目を入力し、「次へ」をクリックしてください。

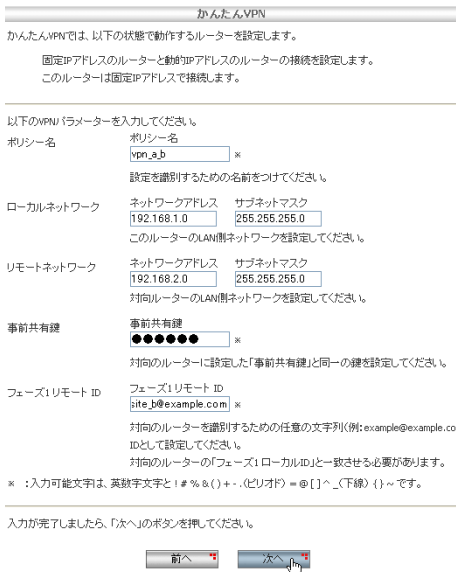


図 6.0.16 拠点 A の設定 (固定 IP アドレス側)

*3 一方が動的 IP アドレスの場合、動的 IP アドレスの側から接続が開始されます。

かんたんVPN	
かんたんVPNでは、以下の状態で動作するルーターを設定します。	
固定IPアドレスのルーターと動的IPアドレスのルーターの接続を設定します。 このルーターは動的IPアドレスで接続します。	
以下のVPNパラメータを入力してください。	
ポリシー名	ポリシー名 vpn_a_b * 設定を識別するための名前をつけてください。
ローカルネットワーク	ネットワークアドレス サブネットマスク 192.168.2.0 255.255.255.0 このルーターのLAN側ネットワークを設定してください。
リモートネットワーク	ネットワークアドレス サブネットマスク 192.168.1.0 255.255.255.0 対向ルーターのLAN側ネットワークを設定してください。
リモートゲートウェイ	リモートゲートウェイ 10.1.1.200 対向ルーターのWAN側IPアドレスを設定してください。
事前共有鍵	事前共有鍵 ●●●●●● * 対向のルーターに設定した「事前共有鍵」と同一の鍵を設定してください。
フェーズ1 ローカル ID	フェーズ1 ローカル ID site_b@example.com * このルーターを識別するための任意の文字列(例: example@example.com) IDとして設定してください。 対向のルーターに設定した「フェーズ1 リモート ID」と一致させる必要があります。 * : 入力可能文字は、英数字文字と ! % & () + , - . () / : ; [^ _ { } ~ です。
入力が完了しましたら、「次へ」のボタンを押してください。	



図 6.0.17 拠点Bの設定 (動的 IP アドレス側)

両拠点で共通のもの：

- **ポリシー名**：この設定に対して、分かりやすい名前を付けてください。拠点 A、B で別々の名前を付けることもできますが、ここでは同じ名前を使用します。
(例)「vpn_a_b」
- **ローカルネットワーク**：こちら側ルーターの LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。
(例)「192.168.1.0」「255.255.255.0」
- **リモートネットワーク**：相手側ルーターの LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。
(例)「192.168.2.0」「255.255.255.0」
- **事前共有鍵**：こちら側、相手側ルーターとも同じ文字列を入力してください (事前共有鍵は伏せ字で表示されます)。
(例)「secret」

固定 IP アドレス側 (A) のみに設定するもの：

- **フェーズ 1 リモート ID**：
動的 IP アドレス側 (B) の「フェーズ 1 ローカル ID」と同じ文字列を設定してください。
(例)「site_b@example.com」

動的 IP アドレス側 (B) のみに設定するもの：

- **リモートゲートウェイ**：
固定 IP アドレス側ルーターの WAN 側 IP アドレスを入力してください。
(例)「10.1.1.200」
- **フェーズ 1 ローカル ID**：
固定 IP アドレス側ルーターが、動的 IP アドレス側ルーターを識別するための文字列を入力してください。通常、文字列はメールアドレスやドメイン名 (FQDN) を使用します。
(例)「site_b@example.com」

4 内容を確認し、「適用」をクリックしてください。

かんたんVPN	
以下の内容でVPNを設定します。 内容を確認し、「適用」ボタンを押してください。誤りがある場合は、「前へ」ボタンを押し、内容を修正してください。「適用」ボタンを押すと、VPNの設定を行ない、ネゴシエーションを開始します。	
VPNルーターの接続形態	固定IPアドレスのルーターと動的IPアドレスのルーターを接続する
このルーターのWAN側IPアドレス	このルーターは固定IPアドレスで接続する
ポリシー名	vpn_a_b
ローカルネットワークのネットワークアドレス	192.168.2.0
ローカルネットワークのネットマスク	255.255.255.0
リモートネットワークのネットワークアドレス	192.168.1.0
リモートネットワークのネットマスク	255.255.255.0
リモートゲートウェイ	(不要)
事前共有鍵	**** (設定済)
フェーズ1 ローカルID	(不要)
フェーズ1 リモートID	site_b@example.com

注意：ブラウザの戻るボタンは使わないでください。



図 6.0.18 拠点 A の設定確認

かんたんVPN	
以下の内容でVPNを設定します。 内容を確認し、「適用」ボタンを押してください。誤りがある場合は、「前へ」ボタンを押し、内容を修正してください。「適用」ボタンを押すと、VPNの設定を行ない、ネゴシエーションを開始します。	
VPNルーターの接続形態	固定IPアドレスのルーターと動的IPアドレスのルーターを接続する
このルーターのWAN側IPアドレス	このルーターは動的IPアドレスで接続する
ポリシー名	vpn_a_b
ローカルネットワークのネットワークアドレス	192.168.2.0
ローカルネットワークのネットマスク	255.255.255.0
リモートネットワークのネットワークアドレス	192.168.1.0
リモートネットワークのネットマスク	255.255.255.0
リモートゲートウェイ	10.1.1.200
事前共有鍵	**** (設定済)
フェーズ1 ローカルID	site_b@example.com
フェーズ1 リモートID	(不要)

注意：ブラウザの戻るボタンは使わないでください。



図 6.0.19 拠点 B の設定確認

5 「完了」をクリックしてください。

かんたんVPN	
設定が完了しました。 設定した内容は、左メニューの「VPN」[VPN接続]で変更できます。 「完了ボタン」を押して、今設定したポリシーに対してSAが確立していることを確認してください。 正常にSAが確立すると、「IPsec SA」の「SPI」が16進数の数字になります。 設定を保存する場合は左メニューの「設定保存」ボタンを押してください。	
前へ	完了

図 6.0.20 かんたん VPN の完了

6 VPN接続が確立すると、「IPsec SA」の「SPI」が16進数となります。表示されない場合は、表示を「更新」してみてください。

IKE SA						
ポリシー名	ローカル ID	リモート ID	ローカルポート	リモートポート	SA 状態	鍵交換
vpn_a_b	10.1.1.200	site_b@example.com	500	500	完了	Agg

IPsec SA					
ポリシー名	SPI	プロトコル	送信元アドレス	送信先アドレス	トンネル
vpn_a_b	e8dec15e	ESP	10.1.1.200	10.1.1.200	1406
vpn_a_b	1f703d36	ESP	10.1.1.200	10.1.1.200	1406

図 6.0.21 拠点A の SA 状態

IKE SA						
ポリシー名	ローカル ID	リモート ID	ローカルポート	リモートポート	SA 状態	鍵交換
vpn_a_b	site_b@example.com	10.1.1.200	500	500	完了	Agg

IPsec SA					
ポリシー名	SPI	プロトコル	送信元アドレス	送信先アドレス	トンネル
vpn_a_b	1f703d36	ESP	10.1.1.200	10.1.1.200	1406
vpn_a_b	e8dec15e	ESP	10.1.1.200	10.1.1.200	1406

図 6.0.22 拠点B の SA 状態

7 画面左の「設定保存」ボタンをクリックしてください。



図 6.0.23 設定の保存

8 LAN 側のコンピューターから、相手側の社内サーバーなどが参照できることを確認してください。

9 「7 管理者パスワードの変更」(p.27) に進んでください。

●両方が動的 IP アドレスの場合の VPN 接続

DynDNS を利用して、各拠点のルーターの動的 IP アドレスをドメイン名 (FQDN) に関連付けます。

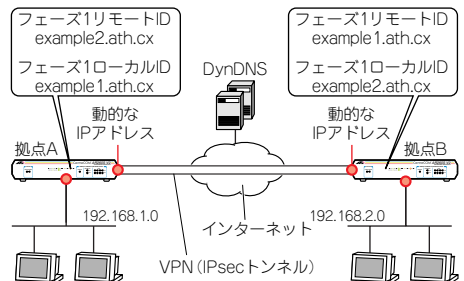


図 6.0.24 両方が動的 IP アドレスの VPN 接続

あらかじめ DynDNS のアカウントを取得しておきます。

1 画面上の「WAN」をクリックし、「ダイナミック DNS」をクリックしてください。

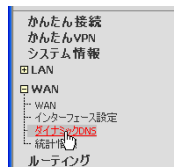


図 6.0.25 ダイナミック DNS をクリック

2 「登録するインターフェイス」にインターネットに接続しているインターフェイス (例: pppoe0) を選択し、あらかじめ作成しておいた DynDNS のアカウントにしたがって「登録する FQDN」、「DynDNS のアカウント名」、「DynDNS のパスワード」を入力し、「適用」を押してください。

ダイナミックDNS設定	
登録するインターフェイス	pppoe0
登録するFQDN	example1.ath.cx
DynDNSのアカウント名	user1
DynDNSのパスワード	*****
更新間隔	20 日

図 6.0.26 拠点A のダイナミック DNS 設定

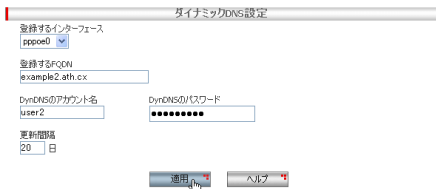


図 6.0.27 拠点Bのダイナミック DNS 設定

3 画面上の「かんたんVPN」をクリックします。

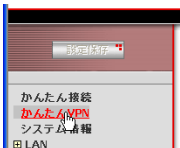


図 6.0.28 かんたんVPNをクリック

4 拠点A、B とも「動的 IP アドレスのルーター同士を接続する（ダイナミック DNS を使用する）」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

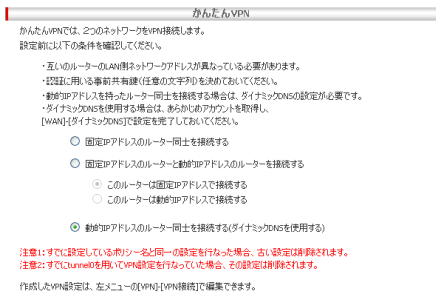


図 6.0.29 拠点A、B ともダイナミック DNS を使用

5 拠点 A、B で各項目を入力し、「次へ」をクリックしてください。

- ポリシー名：この設定に対して、分かりやすい名前を付けてください。拠点 A、B で別々の名前を付けることもできますが、ここでは同じ名前を使用します。
例：「vpn」
- ローカルネットワーク：こちら側ルーターの LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。
例) 「192.168.1.0」「255.255.255.0」
- リモートネットワーク：相手側ルーターの LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。
例) 「192.168.2.0」「255.255.255.0」

- 事前共有鍵：こちら側、相手側ルーターとも同じ文字列を入力してください（事前共有鍵は伏せ字で表示されます）。
例) 「secret」
- フェーズ 1 ローカル ID：こちら側のルーターに設定した FQDN を入力してください。
例) 「example1.ath.cx」
- フェーズ 1 リモート ID：相手側ルーターに設定した FQDN を設定してください。
例) 「example2.ath.cx」

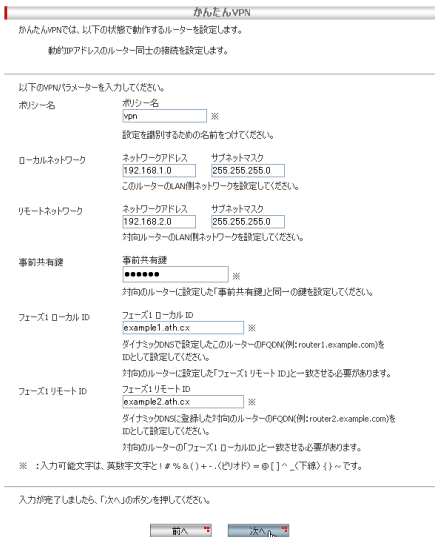


図 6.0.30 拠点 A の設定

かんたんVPN

かんたんVPNでは、以下の状態で動作するルーターを設定します。

動的IPアドレスのルーター同士の接続を設定します。

以下のVPNタイプを選択を入力してください。

ポリシー名 ※
設定を識別するための名前をつけてください。

ローカルネットワーク ネットワークアドレス サブネットマスク
このルーターのLAN側ネットワークを設定してください。

リモートネットワーク ネットワークアドレス サブネットマスク
対向ルーターのLAN側ネットワークを設定してください。

事前共有鍵 事前共有鍵 ※
対向のルーターに設定した「事前共有鍵」と同一の鍵を設定してください。

フェーズ1 ローカルID フェーズ1 ローカルID ※
ダイナミックDNSで設定したこのルーターのFQDN(例:router1.example.com)をIDとして設定してください。
対向のルーターに設定した「フェーズ1リモートID」と一致させる必要があります。

フェーズ1 リモートID フェーズ1 リモートID ※
ダイナミックDNSに登録した対向のルーターのFQDN(例:router2.example.com)を追加して設定してください。
対向のルーターの「フェーズ1 ローカルID」と一致させる必要が有ります。

※ 入力可能文字は、英数字文字と「! # % & () + , - . (ピリオド) @ [] ^ _ { } ~」です。

入力が終わりましたら、「次へ」ボタンを押してください。

図 6.0.31 拠点Bの設定

6 内容を確認し、「適用」をクリックしてください。

かんたんVPN

以下の内容でVPNを設定します。

内容を確認し、「適用」ボタンを押してください。誤りがある場合は、「前へ」ボタンを押し、内容を修正してください。
「適用」ボタンを押すと、VPNの設定を行ない、ネジエーションを開始します。

VPNルーターの接続形態	動的IPアドレスのルーター同士を接続する
このルーターのWAN側IPアドレス	このルーターは動的IPアドレスで接続する
ポリシー名	vpn
ローカルネットワークアドレス	192.168.1.0
ローカルネットワークマスク	255.255.255.0
リモートネットワークアドレス	192.168.2.0
リモートネットワークマスク	255.255.255.0
リモートゲートウェイ	(不要)
事前共有鍵	*** (設定済)
フェーズ1 ローカルID	example1.ath.cx
フェーズ1 リモートID	example2.ath.cx

注意:ブラウザの戻るボタンは使わないでください。

図 6.0.32 拠点A の設定確認

かんたんVPN

以下の内容でVPNを設定します。

内容を確認し、「適用」ボタンを押してください。誤りがある場合は、「前へ」ボタンを押し、内容を修正してください。
「適用」ボタンを押すと、VPNの設定を行ない、ネジエーションを開始します。

VPNルーターの接続形態	動的IPアドレスのルーター同士を接続する
このルーターのWAN側IPアドレス	このルーターは動的IPアドレスで接続する
ポリシー名	vpn
ローカルネットワークアドレス	192.168.2.0
ローカルネットワークマスク	255.255.255.0
リモートネットワークアドレス	192.168.1.0
リモートネットワークマスク	255.255.255.0
リモートゲートウェイ	(不要)
事前共有鍵	*** (設定済)
フェーズ1 ローカルID	example2.ath.cx
フェーズ1 リモートID	example1.ath.cx

注意:ブラウザの戻るボタンは使わないでください。

図 6.0.33 拠点B の設定確認

7 「完了」をクリックしてください。

かんたんVPN

設定が完了しました。

設定した内容は、左メニューの「VPN」メニューから変更できます。
「完了」ボタンを押して、今設定したポリシーに対してSAが確立していることを確認してください。
正常にSAが確立すると、「IPsec SA」の「SPI」が16進数の数字になります。
設定を保存する場合は左メニューの「設定保存」ボタンを押してください。

図 6.0.34 かんたん VPN の完了

8 VPN接続が確立すると、「IPsec SA」の「SPI」が16進数となります。表示されない場合は、表示を「更新」してみてください。

かんたんVPN

IKE SA						
ポリシー名	ローカル ID	リモート ID	ローカル ポート	リモート ポート	SA 状態	鍵交換
<input type="radio"/> vpn	example1.ath.cx	example2.ath.cx	500	500	完了	Agg

IPsec SA					
ポリシー名	SPI	プロトコル	送信元アドレス	送信先アドレス	トンネル
<input type="radio"/> vpn	a5a4905	ESP	10.1.2.200	10.1.2.200	1406
<input type="radio"/> vpn	16c58fb1	ESP	10.1.1.200	10.1.2.200	1406

図 6.0.35 拠点 A の SA 状態

かんたんVPN

IKE SA						
ポリシー名	ローカル ID	リモート ID	ローカル ポート	リモート ポート	SA 状態	鍵交換
<input type="radio"/> vpn	example2.ath.cx	example1.ath.cx	500	500	完了	Agg

IPsec SA					
ポリシー名	SPI	プロトコル	送信元アドレス	送信先アドレス	トンネル
<input type="radio"/> vpn	16c58fb1	ESP	10.1.1.200	10.1.2.200	1406
<input type="radio"/> vpn	a5a4905	ESP	10.1.2.200	10.1.1.200	1406

図 6.0.36 拠点B の SA 状態

9 画面左の「設定保存」ボタンをクリックしてください。



図 6.0.37 設定の保存

10 LAN 側のコンピューターから、相手側の社内サーバーなどが参照できることを確認してください。

11 「7 管理者パスワードの変更」に進んでください。

7 管理者パスワードの変更

管理者（manager）の初期パスワードの変更を行います。



注意

初期パスワードのまま運用しないでください。
セキュリティホールとなる可能性があります。

- 1 「システム管理」の「設定管理 / パスワード」をクリックしてください。

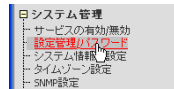


図 7.0.1 設定管理 / パスワード

- 2 「現在の管理者パスワード」に「friend」、「管理者パスワード」と「パスワードの確認」に新たなパスワードを入力して、「適用」をクリックしてください（パスワードは伏せ字で表示されます）。

設定管理クライアント

ID 新規作成
グループ形式 IPアドレス
IPアドレス
追加 変更 ヘルプ

パスワード

現在の管理者パスワード
●●●●●●

管理者パスワード パスワードの確認
●●●●●● ●●●●●●

ユーザーパスワード パスワードの確認
パスワードの確認

適用 ヘルプ

設定管理クライアントリスト

ID	グループ形式	グループアドレス
----	--------	----------

削除

図 7.0.2 管理者のパスワードの変更

3 新しいパスワードを入力してください。

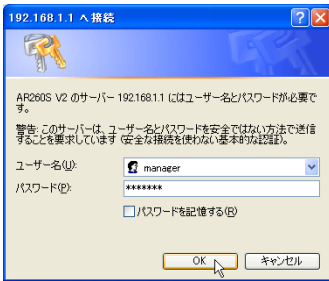


図 7.0.3 新パスワードを入力

4 「設定保存」 ボタンをクリックしてください。



図 7.0.4 設定の保存

●本製品からのログアウト

5 画面左の「ログアウト」をクリックしてください。

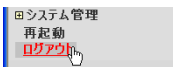


図 7.0.5 本製品からのログアウト

次の画面が表示されたら「適用」をクリックしてください。

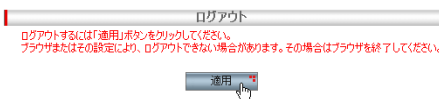


図 7.0.6 適用をクリック

6 「はい」 をクリックしてください。

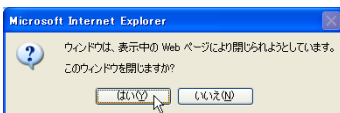


図 7.0.7 ログアウトの確認

8 トラブルシューティング

設定画面がうまく表示されません

- Web ブラウザーとして Internet Explorer Ver.7 または Ver.6 を使用してください。
- 「A.2 JavaScriptの有効化」(p.30) をご覧になり Internet Explorer の JavaScript 機能を有効にしてください (通常、初期設定では有効になっています)。

POWER LEDは点灯するが、正しく動作しません

- 電源をオフにした後、すぐにオンにいませんか？ 電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

リセットスイッチを押しても再起動しません

- 本製品は、リセットスイッチを押しても再起動しません。スイッチによる再起動は、電源スイッチをオフにした後、しばらく間をあけてから、電源スイッチをオンにしてください。

うまく VPN 接続できません

- うまく VPN 接続できない原因の多くは、入力誤りによるものです。各拠点のローカルネットワークアドレス、リモートネットワークアドレス、サブネットマスク、リモートゲートウェイ、事前共有鍵、フェーズ 1 ローカル ID、フェーズ 1 リモート ID を確認してください。

A 付録

A.1 製品仕様

表 A.1.1 ハードウェア仕様

準拠規格	IEEE 802.3 10BASE-T、IEEE 802.3u 100BASE-TX、IEEE 802.3x Flow Control
電源部	定格入力電圧 AC100-120V 定格入力電流 0.5A 入力電圧範囲 AC90-132V 定格周波数 50/60Hz 最大入力電流 0.12A (実測値) 平均消費電力 5.3W (最大 6.2W) 平均発熱量 19kJ/h (最大 22kJ/h)
環境条件	動作時温度 0～40℃ 動作時湿度 80%以下 (結露なきこと) 保管時温度 -20～60℃ 保管時湿度 95%以下 (結露なきこと)
外形寸法	210 (W) × 107 (D) × 38 (H) mm (突起部含まず)
質量	690g (本体のみ)
ポート	WAN 10BASE-T/100BASE-TX × 1 (オートネゴシエーション / 手動設定 (10/100、Full/Half)、MDI/MDI-X 自動切替) LAN 10BASE-T/100BASE-TX × 4 (オートネゴシエーション、MDI/MDI-X 自動切替) CONSOLE 弊社メンテナンス用 (お客様はご使用になれません)
スイッチ部 (LAN)	スイッチング方式 スタア&フォワード パケットバッファ 128KByte MAC アドレス登録数 1K (最大) MAC アドレス保持時間 約 300 秒
CPU	PowerPC 266MHz
メモリー容量	メインメモリー 64MByte フラッシュメモリー 16MByte
適合規格	EMI 規格 VCCI クラスB 安全規格 UL60950-1 CSA-C22.2 No.60950-1 電気通信事業法に基づく技術基準 JATE D07-0240001

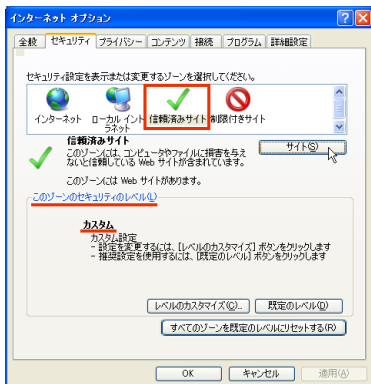
表 A.1.2 ソフトウェア仕様

ルーティングプロトコル	IPv4
ルーティング方式	スタティック
WAN サービス	ADSL、CATV、FTTH などの各種のブロードバンド回線サービス
機能	PPPoE (4 セッション) ブリッジング (IPv6 ブリッジ、PPPoE ブリッジ) スタティック NAT、ダイナミック NAT、ENAT、インターフェース ENAT、ポートフォワーディング、パススルー (IPsec (ESP、IKE) /L2TP/PPTP (GRE))、UPnP DHCP (サーバー、クライアント)、DNS リレー ファイアウォール (ステートフルインスペクション、アクセス制御 (パケットフィルター)、URL フィルター、DoS 攻撃検出) VPN (IPsec (IKE/ISAKMP)、暗号 (3DES、DES)、認証 (SHA-1、MD5)、ISAKMP キーアライブ (DPD/HeartBeat)、NAT-Traversal、内部 NAT) ダイナミック DNS (DynDNS)
管理機能	Web ブラウザーによる設定 (「かんたん接続」「かんたん VPN」「詳細設定」ほか) PING、SNTP クライアント、SNMP エージェント、工場出荷時設定への初期化、設定のバックアップと復元、ファームウェアの更新 統計情報 (LAN (ポート単位)、WAN、PPPoE、ファイアウォール、NAT、VPN) ログ (Web ブラウザーへの表示および SYSLOG サーバーへの送信、出力項目: IP、DHCP、PPP、VPN、ETH、NAT、ファイアウォール、ブリッジ、システム、アプリケーション) 推奨クライアントコンピューター接続数 20 台 スタティックルートの最大登録数 30 件 推奨同時 VPN トンネル数 10

A.2 JavaScriptの有効化

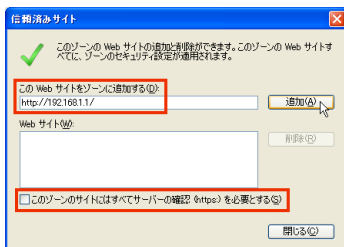
Internet Explorer に以下の設定を施すと、本製品にアクセスするときのみ JavaScript を有効にすることができます(他のセキュリティ設定に影響を与えません)。Internet Explorer Ver.7 の例を示しますが、Ver.6 でも同様です。

- 1 Internet Explorer のメニューから「ツール」→「インターネットオプション」をクリックしてください。
- 2 「セキュリティ」タブをクリックしてください。「信頼済みサイト」を選択しておき、「サイト」ボタンをクリックしてください。



図A.2.1 インターネットオプション

- 3 「http://(本製品の LAN 側 IP アドレス) /」(デフォルトの場合「http://192.168.1.1/」)を入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認(https)を必要とする」のチェックを外してから、「追加」ボタンをクリックしてください。「Web サイト」欄に「http://192.168.1.1/」が表示されたら、「閉じる」ボタンをクリックしてください。



図A.2.2 信頼済みサイトの登録

- 4 「インターネットオプション」ダイアログボックス(図A.2.1)の「このゾーンのセキュリティレベル」が「カスタム」になっている場合は、「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックして、「アクティブスクリプト」が「有効にする」になっていることを確認してください。

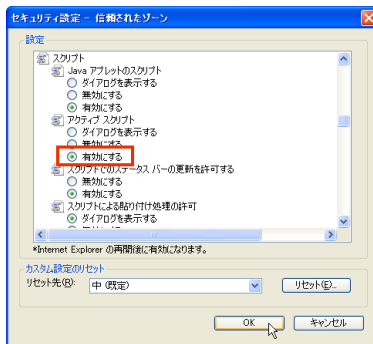


図 A.2.3 アクティブスクリプトは有効

- 5 「インターネットオプション」ダイアログボックスの「OK」ボタンをクリックしてください。「インターネットオプション」ダイアログボックスが閉じます。
- 6 Internet Explorer を再起動してください。本製品に対してアクセスするときのみ、JavaScript が有効になります。

A.3 コンピューターの設定

本製品を利用したインターネット接続ができるように、お使いのコンピューターのネットワーク(TCP/IP)設定を行います。ネットワーク設定は接続するすべてのコンピューターで行う必要があります。また、あらかじめネットワークアダプターの設定がされている必要があります。

Windows XP の設定

- 1 「コントロールパネル(クラシック表示)」の「ネットワーク接続」を開き、「ローカルエリア接続」をダブルクリックしてください。

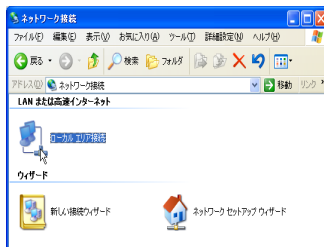


図 A.3.1 ネットワーク接続

- 2 「ローカル エリア接続の状態」ダイアログボックスで「プロパティ」をクリックしてください。

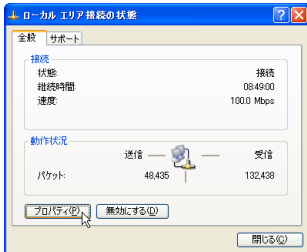


図 A.3.2 ローカルエリア接続の状態

- 3 「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログボックスのリストの中から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。

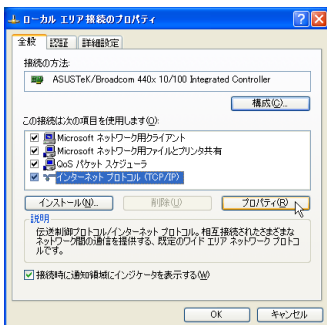


図 A.3.3 ローカルエリア接続のプロパティ

- 4 「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ダイアログボックスで「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、「詳細設定」をクリックしてください。

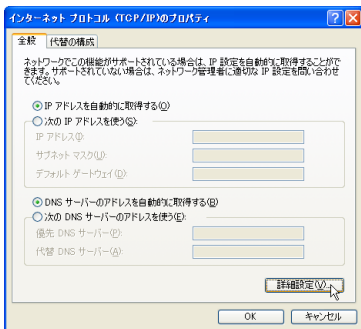


図 A.3.4 IP アドレスの設定

- 5 「TCP/IP 詳細設定」ダイアログボックスで「DNS」タブを選択し、下部の「この接続アドレスを DNS に登録する」のチェックを外してください。

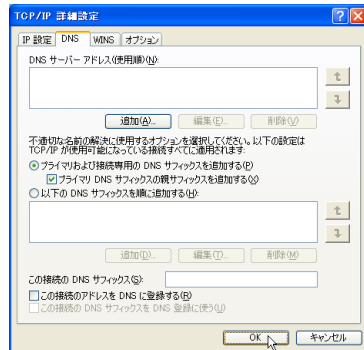


図 A.3.5 DNS の設定



プロバイダーからドメイン名も指定されている場合「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、「追加」ボタンをクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

- 6 「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じ、コンピュータを再起動してください。

Mac OS X (10.4) の設定

- 1 「システム環境設定」を起動して「ネットワーク」をクリックしてください。
- 2 「内蔵 Ethernet」を選択し、「設定 ...」をクリックしてください。

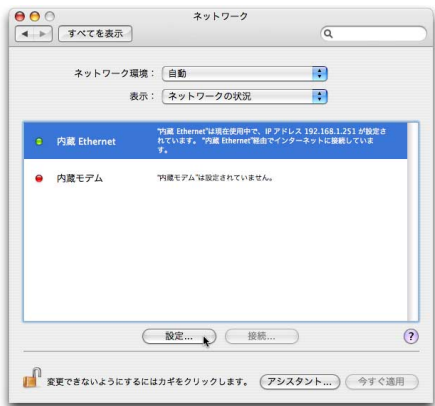


図 A.3.6 内蔵 Ethernet の選択

- 3 「TCP/IP」の「IPv4 を設定」から「DHCP サーバを参照」を選択して、「今すぐ適用」をクリックしてください。

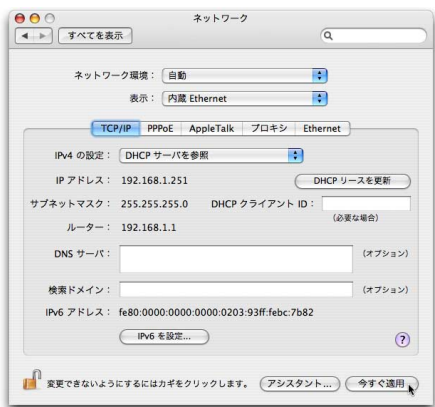



図 A.3.7 内蔵 Ethernet の設定

 プロバイダーからドメイン名も指定されている場合「検索ドメイン」に指定されたドメイン名を入力してください。

A.4 工場出荷時設定への初期化

本製品の設定画面を表示し、「システム管理」→「システムの設定」→「デフォルト設定」の順にクリックして、以後表示されるメッセージにしたがってください。

または、電源スイッチとリセットスイッチを以下の手順で操作してください。

- 1 本製品の電源スイッチをオフにして、しばらく待ってください。
- 2 リセットスイッチを押しながら、本製品の電源スイッチをオンにし、SYSTEM LED が短く 3 回点滅するまで、リセットスイッチを押し続けてください。



スイッチによる工場出荷時設定への初期化は、「システム管理」→「サービスの有効 / 無効」で禁止することができます。

B 保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

Tel : ☎ 0120-860-332
携帯電話 / PHS からは : 045-476-6218
月～金曜日（祝・祭日を除く）
9:00～ 12:00、13:00～ 17:00

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（人の生命、身体に対する被害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）につきましても、弊社はその責をいささい負わないものとします。

C ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-telecis.co.jp/support/info/>
Tel : ☎ 0120-860-772
携帯電話 / PHS からは : 045-476-6203
月～金曜日（祝・祭日を除く）
9:00～ 12:00、13:00～ 18:00

C.1 サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるように、以下の点についてお知らせください。なお、都合により弊社からの連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

一般事項

すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。サポート ID 番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただいてもかまいません。

- サポートの依頼日
- お客様の会社名、ご担当者名
- ご連絡先
- ご購入先

製品について

- 製品名（AR260S V2）、製品のシリアル番号（S/N）、製品リビジョンコード（Rev）をお知らせください。製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品底面のシリアル番号シールに記入されています。

（例）

- ファームウェアバージョンをお知らせください。ファームウェアバージョンは、Web ブラウザーで本製品の設定画面にアクセスし、「システム情報」をクリックすると表示されます。

（例）V.1.0.0 B14

回線について

- ご契約のインターネットサービスプロバイダー（ISP）名またはケーブルテレビ（CATV）名をお知らせください。

お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況でまたどのような頻度で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）お知らせください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容をお送りください。

ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を合わせてお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

☆☆☆

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2008 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOMはアライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Macintosh、Mac OSは、米国 Apple Computer Inc. の登録商標です。

初期に参照している NTP サーバーは、インターネットマルチフィード株式会社のもので

<http://www.jst.mfeed.ad.jp/>

その他、この文書に掲載しているソフトウェア、周辺機器、サービスの名称などは、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただけますようお願いいたします。

日本国外での使用について

弊社製品を日本国外へ持ち出されるお客様は、下記窓口へご相談ください。

Tel: ☎ 0120-860442

月～金（祝・祭日を除く）9:00 ～ 17:30

マニュアルバージョン

2008年11月 Rev.A 初版（F/W Ver.3.1）

